

MAX STUDY GROUP

Vol. 8 2016年7月30日

第8回 レポート

A テーマ設定

今回は、「大学入試改革の作業部会」です。

2020年に入試が変わる、と言われて教育界がせわしなく動いています。私たちも「センター試験がなくなる」「基礎テスト、大学希望者テストが始まる」「合教科型になる」、、、程度のことは分かりますが、テストの名称もいまいちおぼろげで、理解しきれいていません。

もちろん、文科省もまだ大枠しか公表していないし、その大枠ですら何回か変更されています(その変更も私たちはよく分かっていませんが)。どう変わるのか、ということはまだあいまいですが、それでも、現場として、見識を深め、議論を深めていき、意見交換をしていくことは大切なことだと思います。

今回は、文科省の重要資料を中心にしっかりとファーストハンドソースも当たって、まず何が起ころうとしているのか、というリサーチを行います。そして、その中で「事実」を認識、確認し、さらに、私たち教員の「意見」を出すことが今回の目的です。教員目線で今回の「入試改革」「高大接続システム改革」を議論し、方向性、課題、取組を洗い出せればと思っています。

そして、その後、思考力、判断力、表現力を育成する授業と評価というところを含めて、連続セッションにしていこうと考えています。

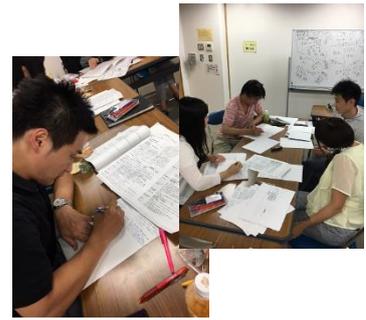
なお、中等教育の学習指導要領の改訂については、「教育課程企画特別部会 論点整理」という重要な資料があり、今回の大学入試改革と連動して議論すべきなのですが、資料が膨大になると、論点が広がりすぎてしまうので、別枠設定にします。

今回使用する資料

- ① 高大接続改革プラン(文部科学大臣決定) 平成27年1月16日
- ② 高大接続システム改革会議「最終報告」平成28年3月31日
- ③ ②の参考資料 2部
- ④ 教育再生実行委員会「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について(第四次提言) 平成25年10月31日
- ⑤ 河合塾ガイドライン 高大接続改革を追う シリーズ

2 ワーキンググループ

その後、「高校教育」と「大学教育」という2つのワーキンググループに分けて、作業をしました。作業の内容は、最終報告に書かれている事象、事実を書き出して、それに対する意見や疑問を出していくことです。詳しい内容は別レポート「高大接続改革に向けて」にまとめましたので、ご一読ください。



<高校教育改革グループ>

Fact	Opinion
<p>2022-11</p> <p>高等学校基礎学力テスト(国)のH1年度が試行実施</p> <p>教育改革内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育課程の見直し → 歴史総合、地理総合「数理情報と健康」(H1年度の実施) ② 教員の研修力の向上 ③ 評価的評価の推進 <p>新しい時代には新しい高校課程の表現のありか...</p>	<p>今の学校の特に工業科・情報科・商学科は、ほとんどが個人での活動、もしくは個人と生徒の対峙がほとんどしかない。</p> <p>新しい科目で教員が準備の負担を軽減する目的で導入しているが、授業内容が浅く、学力向上に貢献しているか？</p> <p>評価制度が導入されたことで、授業内容が浅くなる傾向がある。</p> <p>新しい時代には、新しい時代の必要としている人材を育成するための評価制度が必要か？</p>

Handwritten notes and diagrams for the High School Education Reform Group. The notes discuss various aspects of curriculum and evaluation, such as '新しい科目' (new subjects), '評価' (evaluation), and '教員の研修' (teacher training). A central diagram shows '評価' (evaluation) at the center, with arrows pointing to '学習' (learning), '教員' (teacher), and '生徒' (student). Other notes mention '基礎学力' (basic literacy) and '新しい時代' (new era).

<大学教育改革グループ>

Handwritten notes for the University Education Reform Group. The notes discuss various aspects of university education, such as '外部評価' (external evaluation), '大学先生' (university teachers), and '評価' (evaluation). Key points include '外部評価の重要性' (importance of external evaluation), '大学先生への期待' (expectations for university teachers), and '評価の改革' (reform of evaluation). The notes also mention '新しい時代' (new era) and '高大接続' (high school-university connection).

Handwritten notes and diagrams for the University Education Reform Group. The notes discuss various aspects of university education, such as '外部評価' (external evaluation), '大学先生' (university teachers), and '評価' (evaluation). A central diagram shows '外部評価' (external evaluation) at the top, with arrows pointing to '大学先生' (university teachers) and '評価' (evaluation). Other notes mention '新しい時代' (new era) and '高大接続' (high school-university connection).

C 次回に向けて

今回の議論は次回に持ち越します。具体的なまとめについては、「大学入試改革 MSG まとめ 中間報告①」を別途アップロードしますので、そちらをご覧ください。次回以降も、このまとめをより充実させて、またウェブで発表させていただきたいと思います。

D Review and Reflection

立田先生

今回の勉強会は大学入試改革について自分が知っている知識の棚卸しとあいまいな情報の明確化ができ、非常に有意義でした。Fact と Opinion の整理・共有の時間で話題に上がったことで1つだけ言及させていただきます。平成 31 年度からの高等学校基礎学力テスト試行期間において、私の勤務校のように普通科と工業科がある学校は、テストを実施するかしないかを区別する可能性が十分にあります。もし工業科は実施しないとした場合、実施する生徒への動機づけや権威づけの仕方を工夫しないと意味が薄れてしまうと考えました。また、テストを実施しない生徒が出てきた場合、教育の格差を助長してしまう可能性があり、本末転倒ではないかという意見も出ました。上から命令されて仕方なくやる、という意識がどうしても働いてしまいがちですが、現場サイドとして何とかうまく活用する方法を考え、工夫をして、ポジティブに対応したいです。

実は、この日、勉強会に先立って「大学入試改革の行方」と題したセミナーに参加してきました(於東京外国語大学)。そこで話していた教授は、大学入試改革の議論にも直接関わっている先生ですが、その内容を共有させていただきたいと思います。(セミナーの趣旨として「英語教育」に重点が置かれた内容になっています)

<主な内容>

1. 日本入試制度の特徴

- ① 高校「修了」試験ではない。あくまで大学「入試」試験である。
- ② 2つの入試が存在する。(センター試験+大学個別入試)
- ③ 1人の受験者が複数校受験する。
- ④ 試験が多様性に富む。(年間なんと2万種類!! 個別試験のインパクトが弱まる。)
- ⑤ 大量の受験者が同時に受験する。

2. 入試制度が抱える問題

- ① 1点刻みでない入試は可能か
⇒ 大学側としては定員の問題があるため、現状では不可能
- ② 総合点主義か、基準点主義か

⇒ 全教科毎に基準点を設けることになれば、極端に苦手な科目がある学生は合格できなくなる。(英語の個別試験 TEAP では出願するための基準スコアを設けている)

③ 入試は高校のものか、大学のものか

⇒ 高校教員からすると高校で勉強した内容を反映させてほしい。

3. 高校英語指導における現状

① 保護者からのアンケート結果より

「受験英語」の指導にはある程度感謝しているが、「実用英語」の指導には不満を持っている。

② 英語教育に放たれた無数の矢

- ・ なくなった「文法授業」1982 年
- ・ JETプログラム 1987 年
- ・ 「コミュニケーション」の登場
- ・ オーラルコミュニケーションABC導入
- ・ 授業は英語で、4技能(聞く・話す・読む・書く)を統合
- ・ SELHiに 168 校認定
- ・ センター試験にリスニング導入 など

4. 入試改革の現状

① 高等学校基礎学力テスト

当面入試では利用せず。生徒がどこでつまづいているか教員が知るためのツールとして使う方向。

② 記述問題の採点について

機械がやるのか人間がやるのか、まだ決定できず。

③ 外部試験の利用について

個別入試の一部で既に利用開始している。(例: 東京海洋大学TOEIC出願資格)

④ 大学入学希望者学力評価テストはどうか？

外部試験を利用するか、大学入試センターが作成するかという議論が続いている。大学入試センターが主導しつつ、民間も介入する方向が有力か。大学入試センターで働く人々は「新しいことはやりたくない」というメンタリティーの人が多く、外部試験を利用することで自分たちの仕事がなくなり、クビがとぶのではないかと不安を抱いている。英語に関しては、英語の資格検定試験を活用すれば、年間 2 万にも及ぶ多様な入試問題を数種類に絞ることができ、問題作成の稼働が減る。

5. 英語で叫ばれている 4 技能テストは結局どうなる？

民間ですすめるか、大学入試センターが独自開発するか、実施しないか、結論出ず。